

地域の文化資本を活かし、熊本を磨く

はじめに

経済資本・自然資本・人間資本（人的資本と社会関係資本）・文化資本の総和が地域社会の価値である。しかしながら、地元では当たり前のものとして日常に溶け込み、地域資源へのありがたみや価値の本質を見出すことが難しい一面もある。

そこで、熊本の様々な資本である地域資源を改めて見直し、再評価することにより、経済資本への転換が図られ、コロナ禍においても地域の持続的な発展へ繋がる可能性を探っていく。

1 熊本の豊かな地域資源

- 熊本には、郷土が育んできた地域資源が豊富であり、特に自然資本と文化資本は観光産業を中心に重要な資本となっている。
- 熊本の地域資源が有機的に結合すれば熊本の地域一体を束ねた価値の発信力が増していくと思われる。資源間を結び潜在力を顕在化させることが期待される。

(1) 熊本が保有する資本と地域資源

熊本は、温暖な気候や文化歴史に恵まれて、地域固有の資源が数多く存在している。しかしながら、その資源自体の認知度や経済資本への転換については、まだ活用を高める余地があると思われる。

下表は熊本の資本における自然資本、社会関係資本、文化資本について、その主な例を挙げ、それに該当する熊本の資源の例を挙げてみた。すべてを網羅していないが、数多くの資源が存在している。

それぞれ資源が有機的に結びつくことで、地域一体として相乗的に価値を上げていくことになり、熊本の存在感を確実に上昇させていくものと思われる。特に文化的価値においては、生活の質や知的向上などの人間的に上質な潤いとなり、熊本のブランドイメージを向上させる。文化資本が、経済的な価値をさらに高めることになるとと思われる。

図表1 資本分類の例

資本名	主な例	熊本の資源
自然資本	気候、地理、地下水、河川、鉱物資源、地熱、景観	温暖な気候、盆地、阿蘇山カルデラ、熊本の地下水、菊池川、天草陶土、すいか、メロン、イ草、山林、里山の風景、大観峰
社会関係資本	構築物、家屋、市街地、交通基盤、地域ネットワーク、地域活動	サクラマチ、役所、博物館、学校、各市町村の市街地、道路網、市電網、バス網、水道網、橋梁、地域の自治会、同窓会、PTA、老人会、消防団
文化資本	歴史的構築物・資源、文化財、伝承文化、芸能、郷土出身者、祭り、気質、郷土料理	熊本城、万田坑、三角西港、崎津集落、球磨焼酎、熊本の日本酒、各地の文化財、肥後象眼、清和文楽、寺社仏閣、加藤清正、北里柴三郎、牛深ハイヤ、肥後もっこす、からし蓮根

2 「文化力と経済力」と「幸福度」について

- 地域資源は、ローカルな自然や歴史を背景に構築された文化資本としての価値を持つ一面もある。
- 文化力と経済力が、幸福のパラドックスを超える生活の満足度をもたらし、さらに地域自体の魅力が増すことにつながる。

(1)文化力と経済力

生活の満足度は以下のように概念化される。

○生活の満足度＝文化力×経済力

※(駄田井正・藤田八輝編著、「文化経済学と地域創造」、駄田井正 (2014) P14)

生活の満足度は、文化力と経済力の積で相互関係を表わせる。経済力が同じでも文化力を高めることにより、より高い生活の満足度が得られる。生活の満足度を高めるには、経済だけではなく文化が影響している。地域の自然や歴史などの独自性や魅力を高める素材を蓄積している文化資本の活用が、市民の生活の満足度や幸福の向上に影響を与えている可能性がある。

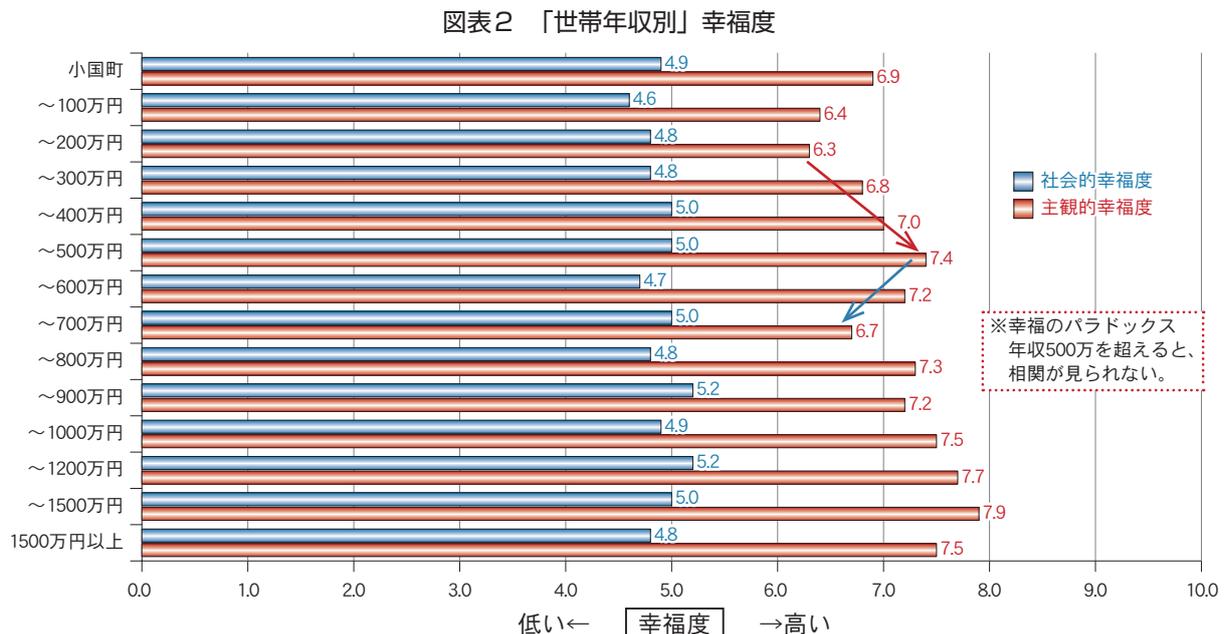
(2)幸福度との関係

①所得と幸福度

当研究所は、2020年2月に住民アンケートを小国町との共同調査で行っている。その中で所得金額と幸福度（0～10の11段階）に関するアンケートによると、所得の向上と幸福度とが相関しない幸福のパラドックス*が確認された（図表2）。これは、経済成長だけが人間の幸福を高めるとは限らないということを示している。

*「幸福のパラドックス」

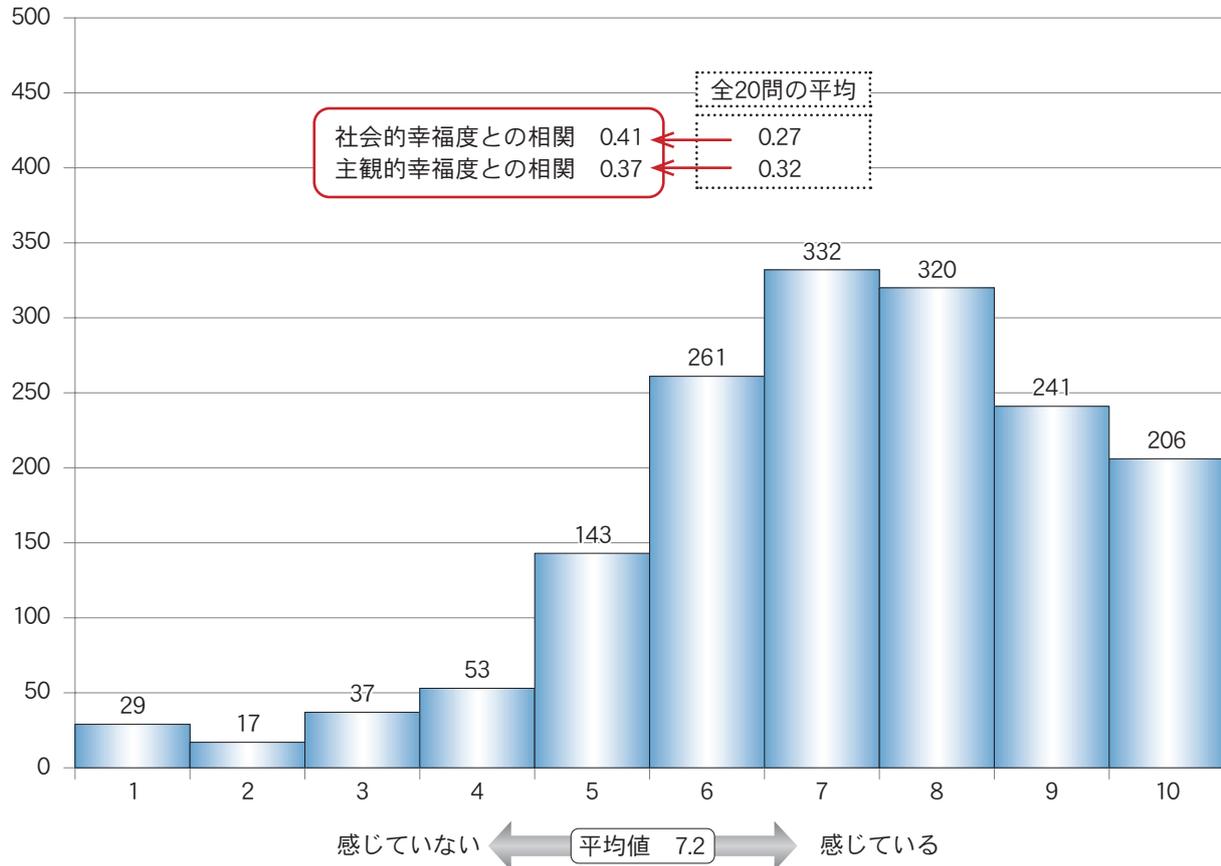
経済成長によって一人当たりの所得が増えても、あるところを超えると、一人当たり所得の伸びと「幸福度」の伸びが明確な相関を持たなくなること



②文化と幸福度

また、「地域の歴史や文化に誇りを感じるか」という文化的側面についてのアンケートの回答の結果として、社会的幸福度や主観的幸福度への相関が、他の質問より強い傾向となった（図表3）。歴史や文化への関心が幸福度へ影響を与えている。

図表3 地域の歴史や文化に誇りを感じますか？



資料：小国町「住民アンケート」

n=1,639

※「幸福」

物理的、心理的、あるいは道徳的な意味における「よい状態」。

※「主観的幸福度」

「幸福」において各個人にとっての「よい状態」を数値化したもの。

※「社会的幸福度」

「幸福」において社会が安全で繁栄するための条件を意味する概念を数値化したもの。

出典：橋本努. 「思想」幸福の経済原理. 岩波書店、2019

(3)文化資本の可能性

地域資源を見直すということは、歴史や文化的な価値をあらためて掘り起こし、認知することになり、文化資本である地域資源への働きかけを強め、新たな活用にもつながっていく。

これは文化資本の活用が、経済成長が低い時代に文化力を通じて人々の幸福度を高める可能性を秘めている。幸福のパラドックスを埋め、地域活性化へのモチベーションである地域の誇りを持つきっかけとなる。

また、担い手の確保にもつながり、地域の持続可能性を高め、更なる幸福度の向上が期待される。

3 文化資本を活用した事例～金沢21世紀美術館

- 金沢市（人口46万人）の金沢21世紀美術館は「新しい文化の創造」と「新たなまちの賑わいの創出」を目的に2004年10月に開館。
- 近隣の地域資源と連携で、より大きな範囲でまちとの共生を図り、新幹線の開通も伴い入館者は250万人（2018年度）を超えている。
- 4つのミッションを掲げ、美術館そのものの価値を高め、市民参加型の交流型美術館として、また子供と成長する美術館として金沢市の文化資源として中核となり、新しい魅力を提供し、経済資本へ転換している。

(1) 金沢21世紀美術館

金沢21世紀美術館は、現代美術をテーマとして、まちの賑わいを作り、文化力を高め、人々の交流を促し、文化面における次世代の育成をも担っている。

また積極的に他施設と連携を行い、美術館を核とした新しい魅力と活力を創出している。

美術館は、4つのミッションを掲げており、地域住民と観光客を惹きつける取組を行っている（図表4）。その結果、県外からの訪問が8割、情報感度の高い女性が約5割、利用回数は全体の約3割が3回以上としてコアファンが美術館の魅力を感じている。2018年度の入館者は250万人を超え、地域の文化を通じた地域資源がプラットフォーム機能を発揮し、まち全体の魅力を高め、経済資本へ転換している。

図表4 地域住民・観光客を惹きつける取組

金沢21世紀美術館の概要② 地域住民・観光客を惹きつける取組



資料：文化庁「文化施設を中心とした文化観光の在り方に関する検討会議（第1回）」資料より

(2) 地域一体となり盛り上げる (図表5)

① 現代美術との接点強化で文化面の教育

金沢市内で学ぶ全ての小学4年生を招待し、美術館で現代アートの多様な表現とふれあう作品鑑賞プログラム「ミュージアム・クルーズ」を開催。次世代を担う世代の教育により、文化に馴染み金沢の芸術価値の持続可能性を高め、同時に美術館も成長している。

② アートdeまちあるき/サポートショップ

金沢能楽美術館と共に、近隣の12の商店街を巻き込んで、博物館を訪れる方に対し、サポートショップとして美術館の優待券配布や有料入館者に対し独自サービスを行い、まちと共栄を図っている。

③ 金沢ナイトミュージアム

金沢に点在する文化施設で週末に夜間会館と多種多様なイベントを開催し、非日常と文化を融合させている。文化資本を有効に活用しアートとまちの魅力を発信、金沢の芸術的な文化的価値を高めている。

図表5 地域を巻き込んだ取組



資料：文化庁「文化施設を中心とした文化観光の在り方に関する検討会議（第1回）」資料より

4 熊本での文化資本活用事例～菊池川流域日本遺産

- 2017年4月に、日本遺産認定ストーリーの所在地域として、菊池川流域の山鹿市、玉名市、菊池市、和水町が「菊池川流域日本遺産」に認定された。
- 豊かな自然のもと2千年にわたる米作り文化が遺した資源を活かし、歴史的ストーリーを展開し、豊富な文化財の活用や歴史的遺構、伝統芸能、食文化などの文化資本の活用を地域一体で図っている。

(1) 日本遺産とは

文化庁が認定する日本遺産は、歴史的建造物、食文化、伝統芸能など、その地域ならではの文化資源の活用を重視。歴史的経緯や地理的な特性、地域の風習に根差したストーリーを地域の魅力として発信し、地域活性化に役立てることを目的としている。

* 日本遺産の方向性

- ① 地域に点在する文化財の把握とストーリーによるパッケージ化
- ② 地域全体としての一体的な整備・活用
- ③ 国内外への積極かつ戦略的・効果的な発信



菊池川流域
「菊池川流域日本遺産オリジナル
ロゴマーク」

(2) ストーリー

菊池川流域日本遺産は、「米作り、二千年にわたる大地の記憶～菊池川流域「今昔『水稻』物語」～」というタイトルを掲げ以下のストーリーを展開している。

ストーリー化により、地域の時代の流れと発展、時代背景が相違する文化財との連携や地域間の繋がりがより強いものとなり、発信するポイントが明確となっている。

① 菊池川流域の米作り

ストーリー（要約）	主な関連資源
<p>弥生時代に、菊池川流域の平坦地で米作りが始まった。鉄製農具を利用し、豊かな土地となっていく。この豊かさが豪華な副葬品が出土した「江田船山古墳」など、多彩で豊かな葬送文化の誕生となり、やがて高い技術力に支えられた菊池川流域の米作りの文化が幕を開けることになる。</p>	<p>岩原双子塚古墳 江田船山古墳 菊池川流域の装飾古墳群</p>



菊池川
玉名市 山鹿市 菊池市 和水町



菊池川流域の弥生時代の大集落遺跡群
玉名市 山鹿市 菊池市 和水町



岩原双子塚古墳・江田船山古墳
山鹿市 和水町

② 二千年にわたる米づくりの開墾の歴史

ストーリー（一部抜粋、要約）	主な関連資源
<ul style="list-style-type: none"> 灌漑技術の導入により8世紀頃から大規模な「条里制」が全国に敷かれると菊池川流域には一区画一辺約109mの水田が整備された。大和朝廷は鞠智城を築き、軍事補給基地の機能を持たせた。 江戸時代、測量技術や土木技術が発達し、各地に長距離の井手を通された。現在も原井手は棚田を潤している。 近世以降、海辺では築堤や樋門建設の技術が発達し、干拓事業が続けられてきた。明治時代・中頃には、海の万里の長城と称される旧玉名干拓施設の堤防が築かれ、最終的には3,000haの耕作地が誕生した。 	<p>菊池川流域の灌漑施設 // の条里跡、区画割 鞠智城跡 原井出 番所の棚田 旧玉名干拓施設</p>



菊池川流域の条里跡、区画割
玉名市 山鹿市



番所地区の棚田
山鹿市



旧玉名干拓施設
玉名市

③ 菊池川流域の米作りの営みがもたらした豊かな文化

ストーリー（一部抜粋、要約）	主な関連資源
<ul style="list-style-type: none"> 菊池川の舟着場と「豊前街道」が交差した山鹿湯町は、米問屋や 麴屋、造り酒屋、米菓子屋など米を扱う商店が軒を連ね活況を呈した。商人達が出資して建てられた明治期の芝居小屋「八千代座」は、今も多くの歌舞伎役者や地元の人々に愛されており、往時の風情を堪能することができる。 菊池川流域には米にまつわる様々な祭りや風習も受け継がれ、田植え前には雨乞い踊り、晩夏には風鎮祭、収穫後は実りに感謝し、舞の奉納などで来季の五穀豊穡を祈る。 伝統的な食事として、有明海の新鮮なこのしろで作った「このしろの丸ずし」や菊池川でとれたモズクガニを使った「ガネめし」といった米どころならではの料理が残っている。また米から作った赤酒は現在も正月のお屠蘇や料理にも使われている。 	<p>菊池川下流域の船着場と港町 山鹿湯町 豊前街道沿いの歴史的町並み 肥後神樂 このしろの丸ずし ガネめし 赤酒</p>



菊池川下流域の船着場と港町
玉名市



八千代座
山鹿市



ガネめし
山鹿市 和水町

資料：①②③写真提供：菊池川流域日本遺産協議会

(3) 地域一体となった資源活用の取組

① 文化資本である地域資源を活用した旅行のモデルコース（図表6）

点在する地域の資源を巡るモデルコースを設定しており、玉名・和水と山鹿・菊池をそれぞれ一日で地域の自然と文化資源を体験し、周遊するプランを明示している。

また4市町を巡るコースは一泊二日で菊池川流域の歴史学び、米作りが育んだ背景をしっかりと理解できる設定となっている。

4市町の地域連携により自然と文化を一体化として捉えらるとで、知的好奇心を高め独自の価値を生み出している。

図表6 探索モデルコース



資料：菊池川流域日本遺産協議会HPより

② 菊池川流域をむすぶ「ヨムスビ」プロジェクト（図表7）

山海のミネラルを運ぶ菊池川の恵みによって生まれた「食」や「歴史」「地域の人々」をむすび、魅力を伝えていきたいとの思いから、菊池川流域における「食」のブランディングを進めている。

菊池川流域で生まれた「おいしい」お米を使い、各市町の産品をむすぶ「ヨムスビ」をテーマに、たくさんの魅力が詰まったメニューを開発、提供が始まっている。各市町の飲食店が共通のテーマで食文化を提供することで、発信力が増し地域の価値向上を狙っている。

図表7 ヨムスビ処パンフレット



資料：菊池川流域日本遺産協議会HPより

(4) 今後の取組と課題

① 地域資源のさらなる連携活用

HPでのさまざまな情報がアップされているが、単一の地域資源では、なかなか足を運ぶ機会への訴求力が弱い。

近隣のゆかりある文化資源の回遊プランとともに提案していくことがその土地の暮らしや歴史を深く知ることにつながる。古来から伝わる米作りを由来とする文化的価値を理解してもらうことが、経済的価値への転換を促進するチャンスとなる。

② コロナ禍への対応

菊池川流域日本遺産の地域を巡る移動範囲は、県境を跨がず近場観光であるマイクロツーリズムに通じる。文化資源を組み合わせたコース設定をさらに企画することで、新たなニーズを取り込み地域の良さを伝えることで持続可能性が高まる。

5 熊本の豊かな地域資源活用の方向性

- 地域資源を結び付け経済資本へ転換するには、地域一体での様々な巻き込みが必要であり、それが持続可能性を高める。
- 文化資本の活用により、文化面として知的さや芸術文化などへの取組が、魅力的な地域に成長させ、幸福度を向上させる可能性がある。
- コロナ禍の新常態が、近場のローカルな資源への注目を促すことが期待される。熊本の地域資源の再発掘や磨きが必要である。

(1) 地域一体となった地域資源の総合的な活用

- ① 地域資源を活かすには、自治体同士の連携や地元を支えている商店街など、様々な関係者を巻き込むことで、持続可能性が高い大きな推進力や発信力に繋がり経済資本へ転換が図られる。
- ② 次世代を担う子供たちへ地道に地域資源を学ばせることで、地域の独自性を認識しアイデンティティーを生じさせる。次世代を意識した地域資源の活性化は、将来の地域を誇りに思うことが地域社会を支えるモチベーションにも繋がる。

(2) 幸福度と文化資本

- ① 文化資本である地域資源を核として、ふるさとのつながりや独自性を表現している存在価値を見出し、評価することで、文化や歴史へ造詣が深まり、郷土愛や幸福度を高める可能性がある。
- ② 例えば、熊本城を核として近隣の複数の文化資本を組み合わせ、ストーリーを作ることで関連した各文化資本を連携した活用は、相乗効果として現れると思われる。それが地域の魅力を一段と高め、強固な地域の誇りとなって受け継がれていく。

尚、熊本市は2020年6月に歴史的風致維持向上計画が国から認定されており、特に熊本城を中心とした城下町地区は重要区域として設定され、整備により一体の魅力が高まることが期待される。

(3) withコロナ時代の観光

- ① コロナ禍がローカルへ目を向けるきっかけとなっている。地元の間人が詳しくその背景を知らない地域資源もあり、地域の今昔を理解し新たに見出す機会にもなる。
- ② マイクロツーリズムの視点で県内地域資源の発掘と磨きをかけ、豊かな地域資源を再評価し有機的に繋げることで、withコロナ時代の地域循環型の観光の可能性が見えてくる。

おわりに

- 豊かな地域を代表する各種資源を再評価し、相互に有機的に結び付けることで価値創造に繋がり、経済資本への転換に大きな効果が期待できる。
- 地域の独自性である歴史や文化を中心にして、地域の人たちが地域資源に磨きをかけ文化的な価値を見出すことにより、地域活性化と幸福度の高まりに繋がる。